



第20回 個性づくりテーマ展示

子どもの発達 ～発達心理学で子どもがわかる～



人生の中で最も大きく変化を遂げるのが乳幼児期です。

生まれた時には何もできない赤ちゃんだったのが、数年のうちに歩いたり走ったりできるようになり、言葉を覚え、目に見えない世界を思考することが出来るようになります。成長という子どもの変化は、子育ての喜びでもある一方、不安や心配も引き起こします。

今回は乳幼児期～児童期の発達心理学を取り上げます。子どもがどのように発達していくのかを理解することで、子育ての不安や心配を成長の喜びに代え、子どもの発達を支えるにはどのようなことが出来るのかを考えるヒントにしてください。

展示期間 2014年8月30日(土)～10月30日(木)

展示場所 鷺宮図書館 5階個性展示コーナー

◆発達心理学とは◆

発達心理学とは、胎児期から老年期に至るまで、それぞれの段階に応じて起こる心の変化を理解する学問です。胎児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期など、各時期のからだやこころの構造・働きを調べますが、近年はこのように人生を輪切りにした発達心理学ではなく、知性や社会性といった個々の心的機能が生涯を通してどのように変化するのか研究する「生涯発達心理学」が盛んです。



◆発達の側面◆

人間は、生まれた直後には自分では何もできない赤ちゃんだったのが、やがて立ち上がって歩いたり走ったりできるようになります。同じように脳も発達して、言葉を獲得し、情感が豊かになり、知的にも発達して行きます。自分と他人を区別することが出来るようになり、社会性も発達します。発達の様々な側面はある程度独立して発達し、互いに相互作用して、1個の人格として統一体をなして進みます。

○情緒と人間関係の発達

感情・情緒と社会性・人間関係の面は相互に繋がりがあって発達します。生後数か月で「快」「恐れ」「怒り」が現れ、5歳で大人と同じ情緒が揃います。子どもの認知能力の成熟や、まわりの人が子どもの感情をどう扱うかの体験で、情緒の表出の仕方や調整の仕方を学んでいきます。

大人は、子どもが豊かな情緒を経験しそれを他者と分かち合えるように、また自らの情緒を他者とのかかわりの中で調整できるように支援してあげることが必要です。

○認知の発達（知覚・記憶・思考の発達）

認知とは、自分を取り巻く様々な事を知り、理解・思考して判断する情報処理過程です。生後2歳くらいまでは、自分の行動とその結果の関心の発見を繰り返します。その後、目の前に無いものについて考えることが出来るようになってきます。2歳～4歳の模倣やごっこ遊びを通してイメージを膨らませ、自他の区別が出来るようになり、少しずつ客観的、論理的に物事をとらえられるようになります。やがて観念的、抽象的な思考が可能となってきます。

○自己の発達

赤ちゃんは、母親と自分を区別できない母子未分化の状態から、おなかが空いて泣いても思うとおりに母親が来てくれないこともある、というような経験を繰り返して、母親と自分は違う存在だということに気が付いて行きます。自分と他者は異なる存在だと認識できるようになると、自分自身を認知できるようになります。自己認知や所有意識が芽生えてくると、次第に自分の意思や欲求を強くぶつけるようになる第一反抗期がやってきます。第一反抗期はこどもの発達にとって2つの意味で重要です。1つは、自分は親とは違い独自の意思を持っていることを確認する自己意識の高まりを意味します。もう1つは、自分の能力を確認したいという自尊感情の高まりです。他者からほめられたり、自分はできるのだという有能感（コンピテンス）を持つことで、子どもは自分を肯定的にとらえられるようになります。



◆年齢による発達の諸相◆

○乳児期（出生～生後1年半）

赤ちゃんはお母さんのおなかから誕生した瞬間、空腹、暑さ寒さ、大きな音など、胎内では経験したことのない不快と不安を体験します。誰かの保護を必要とする赤ちゃんは、泣く、微笑、発声というシグナルを送り、そのシグナルに速やかに応えて赤ちゃんの不快や不安をとりのぞいてくれるお母さんを始めとした保護者・保育者と相互交渉を繰り返すことで、「この人といれば大丈夫だ」「この人と一緒にいたい」という特別の感情～「愛着の形成」が行われます。



○幼児期前期（1歳半～3歳ごろ）

1歳になると、何でも自分でやってみようとする自立心が旺盛になります。この自立心を尊重しながら基本的な生活習慣の基礎を築きあげていく時期です。

2歳になってことばが使えるようになると「いや」という言葉で自己主張が目立ってきます。「反抗」に見えるこの自己主張も幼児期前期に生じる大切な発達です。

3歳になると母親と一緒に居なくても自分と母親との関係には変化が生じないという「関係の永続性」を理解できるようになり、母子分離が可能となります。また言葉の発達が著しく、自分の感情を言葉で表現することができるようになります。

○幼児期後期（4歳～5歳ごろ）

2歳児や3歳児は想像の世界に住んでいますが、4歳になると現実認識が高まりこの現実世界の中で自分はどのような存在なのかということを考えるようになります。このような時期に「周りの人々は自分をかけがえのない子と思っている」と感じる事が出来れば、後に本格的に自己を見つめる青年期を迎えても、しっかりした視点で自己を見つめつつ、荒波を乗り越えていくことができます。

5歳になると基本的な生活習慣はほぼ身につけていますし、自分の立場やなすべきことについてよく分かってきています。言語能力の発達や現実感覚を身につけてきたため、感情を合理的に表現することが出来るようになってきます。欲求不満に耐えることや自分の感情をコントロールすることが可能になってきます。社会には守るべきルールがあるというルールの理解や、自分がしたくなくてもしなければならぬこともあるという課題意識が芽生え、やがてもっと厳しいルールや課題が沢山ある学校生活に適応出来るようになります。

◆発達の障害◆

自閉症、学習障害、注意欠陥性多動障害などを発達障害と言います。発達障害は単なる発達の遅れではなく、また“正常”か“異常”かの二分法で考えるべきものでもありません。典型的な発達とは異なった発達をしていると考えるのが、今日の発達障害のとらえ方です。

発達障害の子ども達の理解には、どのような長所があるかというポジティブなとらえ方が重要であるとともに、頻繁な叱責や失敗経験の繰り返しによって自己評価が低くなり、社会生活の適応を妨げる二次障害を起こさせない配慮が必要です。



出典：『新乳幼児発達心理学』 繁多進／監修 福村出版
『面白くてよくわかる！発達心理学』 林洋一／著 アスペクト
『発達心理学』 無藤隆／中坪史典／西山修／編著 ミネルヴァ書房
『たのしく学べる乳幼児の心理』 櫻井茂男／岩立京子／著 福村出版

おすすめ展示図書



『1歳児のころ』

大人との関係の中で育つ自我』

近藤直子／著

ひとなる出版 2011

請求記号 376.1 コ

子どもの発達に大きな意味を持つ1歳児の発達を詳しく解説。18か月健診の意味、保育・子育てQ&Aも収録。



『続 発達がわかれば子どもが見える』

乳幼児保育研究会／編著

ぎょうせい 2013

請求記号 376.1 ハ

誕生から4歳までの、成長に伴って現れる子どもの姿や行動をわかりやすく解説。その時々につけることやアドバイスも丁寧に示してある。



『新乳幼児発達心理学』

もっと子どもがわかる好きになる』

繁多 進／監修

福村出版 2010

請求記号 376.1 シ

子どもの心をよく知るための、乳幼児発達心理学入門書。保育や子育て支援の視点からも書かれている。

展示図書リスト

このリストのほかにも多数取り揃えております。ぜひ展示コーナーへお立ち寄りください。

| 書名 | 著者名 | 出版社 | 請求記号 | 出版年 |
|----------------------------|---------------|----------|---------|------|
| 乳幼児のことばの世界 | 高橋 司／著 | 宮帯出版社 | 376.1 タ | 2014 |
| 遊びの保育発達学 | 小山 高正／編 | 川島書店 | 376.1 ア | 2014 |
| 0～5歳児の発達と援助がわかる 生活習慣百科 | 川原 佐公／監修 | 大阪ひかりのくに | 376.1 ゼ | 2014 |
| 子どもを理解する 0～1歳・2～3歳 | リサ・ミラー／著 | 岩崎学術出版社 | 371.4 リ | 2013 |
| イラストでよくわかる0～6歳の発達と保育 | 金子 智栄子／監修 | 成美堂出版 | 376.1 イ | 2013 |
| 新編2才児イヤイヤ期の育て方 | 佐野 真子／著 | 主婦の友社 | 599.9 サ | 2013 |
| 乳幼児は世界をどう理解しているか | 外山 紀子・中島 伸子／著 | 新曜社 | 376.1 ト | 2013 |
| イラストでよくわかる0～6歳の発達と保育 | 金子 智栄子／監修 | 成美堂出版 | 376.1 イ | 2013 |
| なるほど！赤ちゃん学 | 玉川大学赤ちゃんラボ／編 | 新潮社 | 376.1 ナ | 2012 |
| 子どもの育ちを考える 発達心理学からいえること | 松田 惺／著 | 三恵社 | 371.4 マ | 2010 |



子どもの成長に絵本を



まだ言葉も話せない赤ちゃんでも、みんな絵本が大好きです。

絵本を読むことで、そこに描かれている絵や文字に出会います。それによって、沢山の言葉や文字を覚え、さまざまな知識が身につきます。さらにそこに描かれている物語の世界に触れ、物語の世界を楽しみ、空想や想像が広がります。

物を目で追う「追視」が出来るようになるのは生後4ヵ月くらいから。でもその前でも、絵本を見ながら赤ちゃんに語りかけて、一緒に楽しい時をゆったりとすごしてください。

少し大きくなった子どもも、ママやパパに絵本を読んでもらう事が大好きです。絵本をなかだちに、親子のコミュニケーションを豊かに育ててください。

どんな本を選べばよいか迷ったり、どんな風を楽しめばいいのか不安になった時には、絵本ガイドの本もたくさん出版されています。

出典：『赤ちゃんからの絵本ガイド』さわだ さちこ／監修 主婦の友社
『乳幼児のこころ』遠藤 利彦 他／著 有斐閣

発達について調べるには

図書館の資料の調べ方、インターネットを活用した調べ方についてご紹介します。

1 【情報探索のキーワード】 効率的な情報検索には、適切なキーワードが必要です。

| | | |
|-------|--------|-------|
| 発達心理学 | 子どもの発達 | 児童心理学 |
| 発達段階 | 発達課題 | 発達障害 |
| 愛着 | 分離不安 | 自己認知 |

2 【基本的な情報源】 辞書・事典類でテーマについて基本的な情報を入手しましょう。

| 資料情報 | 請求記号 | 配架場所 |
|----------------|---------|--------------|
| 発達心理学辞典 | 143.0 イ | 中央参考・東中野・上高田 |
| 幼児学用語集 | 376.1 ヨ | 6階 |
| 現代用語の基礎知識 2011 | 031 ゲ | 6階 |

◎中央図書館参考室では、子育てに関する統計や白書を所蔵しています。

| 資料情報 | 分類 |
|------------------|---------|
| 子ども・子育て白書 平成24年版 | 369.4 コ |
| 保育白書 13年版 | 376.1 ホ |

3 【図書を探す】

●館内所蔵を探す

◎ テーマの棚に行って探す

図書館の本は主題ごとに棚に並んでいるので、請求記号の最初の数字を参考にして同じ主題の本を探すことができます。

| 分類 | 分野 | 分類 | 分野 | 分類 | 分野 |
|-----|-------|-------|-------|-------|---------|
| 143 | 発達心理学 | 371.4 | 教育心理学 | 376.1 | 幼児教育・保育 |

◎ 中野区立図書館利用者解放端末（OPAC）で探す。

資料のタイトル、著者名、出版社名などから、中野区立図書館所蔵の資料を検索できます。

中野区立図書館のHP <http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/>

中野区立図書館 HP（携帯版） <http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/i/>

● 東京都内公立図書館で所蔵されている図書を探す。

◎「東京都立図書館統合検索」 <http://ufinity01.jp.fujitsu.com/metro/index.php>

● 国内で刊行されている図書を探す。

◎「国立国会図書館サーチ」 <http://www.ndl.go.jp/>

◎「Books.or.jp」 <http://www.books.or.jp/>

国内で発行された入手可能な書籍が検索できます。出版社のホームページやオンライン書店へのリンクもあります。

4 【オンラインデータベースで調べる】

中央図書館では、参考資料コーナーの利用者開放インターネット端末で、以下のデータベースをご利用いただけます。

| データベース | 収録期間と主な内容 |
|---------------|---|
| 官報情報検索サービス | 1947年5月3日から当日までの官報記事の検索 |
| 日経テレコン | 1975年からの日経4紙（経済・産業・金融・流通）の記事 |
| 聞蔵Ⅱビジュアル | 1926年から1945年までの朝日新聞紙面イメージ 1945年から当日までの新聞の記事 ほか |
| MAGAZINE PLUS | 1981年からの一般紙・総合誌の雑誌記事検索や学術論文 |
| WHO PLUS | 歴史上の人物から現代の人物まで約32万人のプロフィール |
| D1-Law.com | 判例情報、法律の改廃記録、法律判例文献情報 など |

5 【インターネットを利用する】

●中野区の子育て関係の情報を知る

◎中野区子育て情報 <http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/childcare/index.html>

◎暮らしのガイド「子ども・教育」

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/guide/003/index.html>

●子どもの発達相談・支援

◎鷺宮すこやか福祉センター <http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/177100/>

◎東京都児童相談センター・児童相談所

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/jicen/>

●国の施策情報を知る

◎「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」 文部科学省

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286156.htm

●発達障害の理解・支援

◎発達障害情報・支援センター <http://www.rehab.go.jp/ddis/>

◎発達障害とは 文部科学省

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/hattatu.htm

◎みんなのメンタルヘルス 厚生労働省

http://www.mhlw.go.jp/kokoro/know/disease_develop.html

●類縁機関で調べる

◎文部科学省 <http://www.mext.go.jp>

◎厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

🎵🎵🎵🎵🎵 遊びと発達 🎵🎵🎵🎵🎵

乳幼児期の生活の中で遊び自然に生まれます。遊びの中でさまざまな物事を学習し、それによって知的、社会的な発達が促されます。子どもの遊びは成長するにしたがって変化していくのが特徴です。子どもはその時点で発達しつつある心身の機能を使って遊び、また、発達しつつある機能を使って遊ぶことで、その機能がさらに発達します。

○感覚運動遊び（生後3ヵ月～）

ボールをなめてその感触を確かめるなど、動かせるようになった手や指、口などを使って物を扱い、その結果を理解し、楽しむ遊びが始まります。



○破壊遊び（生後6ヵ月～）

物を放り投げたり落としたりして、自分の行為の結果をためし、色々なものの性質を理解しようとします。大人は困惑しますが、子どもはものを自由に支配する喜びを味わいます。

○構成遊び（2歳～3歳）

指先が器用になってきて、粘土でお団子を作ったりミニカーを並べたり、ブロックを継ぎ足すなど、何かを作ることを楽しむようになります。

○ふり遊びとごっこ遊び

1歳半頃から、大人の行為の真似をする「ふり遊び」が見られるようになります。これは見たことを記憶にとどめ、内面化してイメージを作れるようになったことを意味します。

3歳前後になると、ままごとや電車ごっこなどの「ごっこ遊び」を盛んに行うようになります。これは、あるものを別のものに見立てる能力（象徴機能）の発達によります。対象を心の中にイメージするだけでなく、イメージした対象を心の中で操作することができることを意味しています。

○友達との遊び（社会性の発達による遊びの変化）

幼稚園や保育所に入ると友達と遊ぶ経験が増えてきます。またこの時期は、対人的な認知能力や社会性が著しく発達する時期で、社会性の発達により遊びの形態も変化します。

パーテン（Parten.M.B）は集団の参加という視点から、2歳～5歳の子どもを5タイプに分類しました。それによると、2、3歳児では1人遊び、傍観者の行動（他の子の遊びを見ていて時々口を出す）、平行遊び（他の子どもと同じ遊びを独立して行う）が多く見られ、4、5歳児になると、連合遊び（他の子と一緒に同じ遊びを行う）、協同遊び（子ども同士のルールや役割分担などがある）が増えてきます。年齢とともに子ども同士のコミュニケーションがより深くなるタイプの遊びへと進んでいきます。このように、遊びを通して情緒や友達関係などの社会性の発達もはかられていきます。



出典：『新乳幼児発達心理学』 繁多進／監修 福村出版
『面白くてよくわかる！発達心理学』 林洋一／著 アスペクト
『発達心理学』 無藤隆／中坪史典／西山修／編著 ミネルヴァ書房